

心地よさの中で、 和と洋はひとつになる。

長く王城の地として栄えた街、京都。首都圏に暮らす私たちの感覚では、古いモノを大切にする伝統都市というイメージが強い。だが古くから国際都市であった京都は、新しい文化を取り入れることに巧みな都市でもある。一見、古く見える建築物もその時代、その時代の最先端を大切に使い続けてきたことの証明にほかならない。外来のエッセンスを消化し、独自のスタイルを生み出す日本文化の源流がここにある。

木の特性や日本の風土環境を知り尽くした技と快適なデザイン性の融合。そんな「和モダン」の世界を提案する京都発の室内造形が東京でも話題を呼んでいる。株式会社ふるせ、頑固な職人気質と現代的センスにこだわった老舗の仕事ぶりはマンションリフォーム、新築を問わず、私たちにこれからの住まいのあり方を問いかけているようだ。



経験と伝統が育てた 木の文化、風の道、光の間

木の住まいの優れた特長のひとつに梅雨時には室内の湿気を吸収し、乾燥時には水分を放出する湿度コントロール機能が上げられる。木造住宅が呼吸する住まいと言われる由縁だ。山から切り出された木には本来、自然乾燥といういわば熟成にも似た期間が必要とされる。その理由は木に過剰な水分が含まれていない場合には、先ほどの湿度コントロール機能により、木自体に微妙な変形等が生じる理由による。

また、季節を考えた自然な風の通り道や光の活かし方など、気候風土を考えた設計デザインには、実用性だけに留まらず、細部にまでこだわった美意識が隠されている。

さて、株式会社ふるせは、京都で長年、良質の木材を使い、高い技術をもった職人たちにより丁寧な仕事をしてきた建設会社を母体として、このバックボーンを背景にした資材の調達・管理能力、設計者、職人のネットワークが、施主個々のライフスタイルに合わせた快適



な空間の醸成を可能にしているのだ。和の知恵と技術、デザイン性に富んだ和モダンの提案は、マンションリフォームにおいても、今までは大きく変化した独自のくつろぎの世界を描き出す。

奔放に、繊細に、その人なりの センスがにじむ住まいとは

十人十色という言葉があるが、住空間に求めるニーズもライフスタイルによって大きく変化する。無垢の木材や珪藻土、土壁、漆喰など

良質な日本の建築の特性と現代のライフスタイルに合わせたモダンな空間を創るためには、施主との綿密な打ち合わせが不可欠の要素となる。

東京世田谷にあるショールーム※では、京都の北山杉をはじめとする幾種類もの無垢材や職人の手による珪藻土、土壁、漆喰の壁などをみて、体感して、比較することができる。また、ここでは空間を活かしたリフォームの工夫例や、ケヤキの一枚板をワークトップに使った厚重なキッチンなどの実例も見ることが出来る。もし、今あなたが自然素材を活かしたリフォームや新築などを考えているなら、納得の住空間を創り上げるためにも、ぜひ足を運んでみることをお勧めする。

もう一歩先に進む デザインールへのこだわり

京都のこだわりは細部にも厳しい視線を当てている。上の洗面ボウルもそのひとつ。陶工谷口良孝氏との共同開発による清水焼の質感とシンプルなものにも斬新なデザインが見事に空間の中で調和している。古材を使った扉や左官仕上げ、無垢材の梁隠しなど、マンションとは思えないリフォームを可能にしている理由は、そのこだわりの集積にあるといえそう。

下にある4本の瓶も株式会社ふるせのこだわりを示すもの。左から柿渋、荳油、重麻仁油、桐油と呼ばれる、この液体は伝統的に使われてきた自然の塗料。ハウスシックの問題もなく、また木の呼吸を妨げることがないため木を長持ちさせることができるのだという。住むほどに愛着の湧く住まいとするためには、里



京都ふるせ 株式会社ふるせ

〒155-0033 東京都世田谷区代田4-2-7
TEL.03-5300-3600 FAX.03-5300-3200
(営業時間/10:00~17:00 定休日/水曜日)
※ショールームは予約制のため、事前に下記まで申込みのこと
<http://www.furuse.jp/>